

論文内容の要旨

報告番号		氏名	松下 千枝
Linkage of Lower Urinary Tract Symptoms to Sleep Quality in Elderly Men with Nocturia: A Community Based Study Using Home Measured Electroencephalogram Data			
高齢者における睡眠の質と夜間頻尿の関連：在宅脳波データを用いた地域密着研究			

論文内容の要旨

【目的】

夜間頻尿による睡眠の中断は、睡眠の質を低下させると言われている。また、徐波睡眠時間が短縮することで睡眠の質が低下することも報告されている。つまり夜間頻尿による睡眠の中断により徐波睡眠時間が短縮し、睡眠の質が低下するという仮説が成り立つ。しかし、睡眠の質を調査するための脳波検査は研究室や病院などの非生理的な環境でしか行うことができず、日常の睡眠を客観的に評価することは困難であり、夜間頻尿患者の睡眠について客観的に調査した研究はない。本研究では、簡易型脳波計を用い、在宅における高齢者の夜間頻尿と睡眠の質の関連について検討を行った。

【方法】

奈良県で 2007 年より実施された地域密着研究である「藤原京スタディ」において、65 歳以上で夜間排尿回数が 3 回以上の 47 名に対し、ピッツバーグ睡眠質問票にて睡眠の質の主観的評価を調査し、尿流測定、国際前立腺症状スコア (I-PSS)、排尿記録にて下部尿路症状の調査を行った。また、自宅での睡眠時に簡易型脳波計を装着することにより、睡眠の客観的評価項目である睡眠深度を調査した。

【結果】

- ①ピッツバーグ睡眠質問票による主観的な睡眠の質に影響を与えた因子は I-PSS-QOL スコアと徐波睡眠時間であった。
- ②睡眠効率に影響を与えた因子は夜間尿量であった。
- ③徐波睡眠時間の長さに影響を与えた因子は最大尿流率であった。

【結語】

夜間頻尿のある高齢者において、下部尿路症状は睡眠の質の低下と関連する。尿勢低下や夜間多尿の改善、より長い徐波睡眠時間が睡眠の質に影響していた。